

## くらしとびみ

## 第1回 プラスチック製ストローが無くなる？

金子 泰純

はじめまして。和歌山大学システム工学部の金子です。専門は環境計画・環境政策ですが、COC+（学生の地方への定着をはかる事業）推進室の室長を兼務しています。今回は、「くらしとびみ」を題材とさせていただきます。

ファミリーストラン等を展開する「すかいらくホールディングス」がプラスチック製のストローを廃止すると公表しました。今年（2018年）8月のことです。2020年の東京五輪・パラリンピックまでに国内外の全店舗で、またガストでは今年度中に廃止するようです。これより前にスターバックスやマクドナルドがプラスチックストローを止めるとの報道がありました。この動きは今、世界中に広がるうとしていきます。ストローを使用するのはせいぜい10分程度。しかし、それが自然に分解するには何年もかかるため、廃棄されたプラスチックが自然環境に流出すると問題を引き起こすこととなります。プラスチックごみによる海洋汚染を象徴しているのが、このプラスチックストローなのです。

私たちのくらしを支えているプラスチックの生産量は年に3億トンともいわれています。その一部が海にごみとして流れ込み、海岸での漂着ごみとなり、また海鳥や海洋哺乳類が餌と間違えて飲み込み死亡するなどの問題を引き起こしています。8月に神奈川県で打ち上げら

れたシロナガスクジラの赤ちゃんの胃の中からもプラスチック片が見つかったそうです。

ごみとなったプラスチック製品が適正に収集処理されず、溝や川に捨てられたり風に飛ばされたりすると、やがて海に流れ着きます。プラスチックはなかなか分解しないため世界中で汚染を引き起こしているのですが、紫外線や波浪などにより劣化して分解してもマイクロプラスチックとなつて問題視されています。細片化した5ミリ以下のプラスチックをマイクロプラスチックと呼んでいて、ここまで小さいともはや回収することは困難です。マイクロプラスチックには有害化学物質を吸着する性質があり、これを飲み込んだ動物プランクトンや魚などの海の生態系への影響やひいては人体への影響が心配されるのです。

プラスチックは軽くて丈夫でしかも安価のため、私たちのくらしに大いに役立っているわけですが、それがごみになった時のことを考えて利用しなければいけないのではないのでしょうか。

これから6回にわたり、私たちのくらしとプラスチックをはじめとするごみとの関わりについてご紹介します。よろしくお願ひします。

（かねこ・ひろずみ 和歌山大学システム工学部教授／COC+推進室長）



## 和歌山大学岸和田サテライト

岸和田市をはじめとする泉州・大阪南部地域の発展と創造に貢献する和歌山大学の拠点として活動しています。

無料公開講座 わだい浪切サロン・・・毎月第3水曜日（2月と8月は除く）や、社会人向け授業など、世代を超えた学びと地域づくりの支援をおこなっています。



第104回わだい浪切サロン  
「発達障害のある人と関わる中で」

大阪府岸和田市港緑町 1-1 浪切ホール 2F

TEL・FAX：072-433-0875

岸和田サテライト

検索

